１．秦　浩

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.体育館への空調設備導入について	９月定例会でも一般質問を行ったが、改めて本市の学校体育館への空調設備導入について伺う。 ① 体育館への空調設備導入の方針決定について ② 本市の体育館の避難所としての機能は。 ③ 学校以外の体育施設を含めた今後の計画は。	
２.市長の方針決定について	① 公共施設使用料改定に伴う減免措置の方針決定について ② 減免措置の方針変更を決定した庁議における市長の発言について ③ 市長が方針を決定する際の考え方について	

２．中村　清隆

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．屋内運動施設の空調設備設置の計画について	令和８年９月定例会後に開催された総合教育会議を傍聴したが、空調設備設置の方針決定はなされたものの、詳細な計画についての話はなかった。そこで以下の点について伺う。 ① 空調設備設置に向けた課題 ② 全ての小中学校に設置するのか ③ 空調設備設置にかかる１校あたりの工事期間と予算 ④ 福間・津屋崎体育センターへの空調設備設置の考え ⑤ 福間・津屋崎武道館への空調設備設置の考え ⑥ 国の補助金 ⑦ 空調設備の方式	
２．医療的ケア児・者の家族に対するレスパイト支援事業について	福岡県は、在宅の医療的ケア児・者の看護や介護を行う家族の負担軽減を図るため、指定訪問看護ステーションの助成を行う市町村に対し、予算の範囲内において補助金を交付するとしているが、本市の取り組みについて以下の点を伺う。 ① 本市の補助事業開始時期 ② 本市が補助制度の適用を受けるための要件 ③ 補助対象外となる人の主な要件 ④ 補助金額 ⑤ 周知方法	

３.避難所運営について	災害対策として、避難所の備蓄品等の確保についての課題はまだまだあると考えるが、長期間の避難所生活となった場合の居住空間の課題や感染症対策の課題もあると考える。そこで以下の点について伺う。 ① スフィア基準についての認識 ② 避難者数を鑑みたスペースの確保とレイアウト ③ ダンボールベッドの確保 ④ 簡易テントの確保 ⑤ 土足禁止の考え ⑥ サーキュレーターの確保 ⑦ ラップポン等の簡易トイレの確保 ⑧ 感染症対策におけるトイレの導線の確保 ⑨ 感染症発症者の保護部屋の事前準備はできるのか	

３．倉元　敏徳

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.公共交通について	市民が皆平等に公共交通を利用できるようにすることは、行政の重要な政策の一つと考える。また、市は誰一人取り残さない行政を目指すとしている。そこで以下のことについて伺う。 ① 公共交通空白地域の政策 ② 高齢を理由に運転免許を返納した市民への支援策	

４．大山　隆之

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.公共施設の在り方について	行財政改革や稼げるまちの方針で行われる公共施設の使用料の見直しと、見直し後の施設の在り方について以下の点を問う。 ① ４月からの全体的な施設利用料値上げに対する市民の反応 ② 公共施設の整備に対するスピード感 ③ スポーツ施設の耐用年数	
２.選挙の在り方について	今年度、本市でも選挙が行われるが、今後の選挙の在り方について、以下の点を問う。 ① 投票率向上に向けた取り組み ② 期日前投票所と商業施設における投票所開設	

５．山本　祐平

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.福津の漁業振興と福間漁港の有効活用について	約３年前の令和５年９月定例会において、私は本市の水産業と漁港が抱える課題を２つの側面から取り上げた。 １点目は、漁師の激減と高齢化が進む中での担い手確保と「儲かる漁業」への収益構造転換。２点目は、福間漁港周辺駐車場の有料化や、旧荷捌き施設・空き係留スペースの利活用といった遊休資産の有効活用と収益化である。 当時の答弁では、担い手育成は待ったなしの状況であり全庁的に取り組む、施設活用や駐車場有料化も前向きに検討・事務を進めるとの回答であった。あれから令和６・７・８年度と３度の当初予算編成を経て、まちづくり基本構想の目標年である 2030 年まで残り４年を切っている。この３年間で何が具体的に進み、何が止まっているのか、以下について伺う。 ① 漁業従事者の現在数と過去３年間の後継者対策実績 ② 水産業振興において地域商社「福津いいざい」が担う役割と実績 ③ 福間漁港周辺駐車場の有料化の進捗 ④ 福間漁港の「旧荷捌き施設（旧お魚市場）」の用途変更と活用の進捗 ⑤ 福間漁港の空き係留スペース活用の進捗	

６．石田　まなみ

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.災害時に誰もが安心して避難できる体制の整備について	広報ふくつ11月号では、自助・共助の基本となる「いざというときに命を守る行動」について、市民への啓発が特集として掲載された。 市民一人ひとりの備えや地域での助け合いを実効性のあるものとするためには、それを支える行政の役割も重要である。自助・共助を支える公助という視点から、市の防災体制について問う。 （１）地域で支え合う防災体制について ① 自治会未加入者を含め、住民に防災情報を届ける体制 ② 要配慮者の避難支援と、地域の助け合いを支える行政の役割 （２）避難所の環境整備と長期避難への備えについて ① 避難所として使用する施設の設備状況や課題の把握 ② 大規模災害による長期の避難生活を想定した施設・設備の整備 ③ 福祉避難所の開設・運営体制と受け入れ環境の整備	

７．榎本　博

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．地域拠点としての津屋崎地区と東福間駅周辺地区の計画と整備について	まちづくり基本構想では 2030 年を達成年度として、7つのテーマ別目標像（共育、地域自治、健康、安全安心、環境保全、地域産業、観光振興）の計画を掲げ、取り組みが進められている。 テーマ別目標像の「観光振興」について、津屋崎地区では観光資源を生かした整備と取り組み、東福間駅周辺地区では「安心・安全」を掲げ、子育て世代の定住促進が進められている。この二つの地域拠点の取り組みと成果及び課題について伺う。 （１）津屋崎地区 ① 歴史的景観の保全と再生 ② 旧醸造場施設と文化財として新たに指定された建造物の保存と活用 ③ 観光交流環境の整備と運営 ④ 観光交流スポット及び観光交流ゾーンを繋ぐ交通アクセスの確保 ⑤ 世界遺産の古墳群の環境整備 （２）東福間駅周辺地区 ① 東福間口と若木台口の整備の進捗状況とイベントスペースに期待する効果 ② 駅周辺の未利用地の活用 ③ 交通結節点としての機能充実 ④ 東福間駅周辺の住宅地再生 ⑤ 東福間団地の集合住宅を管理する県との連携	

８．戸田　進一

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．雨水対策について	豪雨被害等を繰り返さないための計画策定や事業が現在進行中である。そこで、福津市管理河川の河川ごとの対策の進捗状況や、現状での課題及び今後の計画、県との連携・協議について伺う。	
２．通学路の安全対策について	本年の６月定例会で取り上げた市道浜田橋・花見線、花見の里３丁目付近の通学路の安全対策について、進捗状況と今後の計画を伺う。	
３．宮司小学校開校にあたっての保護者の不安･疑問に対する見解について	今年の７月２日及び７月８日に行われた宮司小学校開校前保護者説明会で参加者から出された声を含めて、保護者の不安や疑問に対しての市の見解を伺う。	
４．学童保育所について	子どもたちの放課後の生活の場としての役割が求められている学童保育所について、現状の課題と今後に関する市の見解を伺う。	

９．井手口　忠信

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.福津市企業誘致方針について	本市はこれまで、豊かな自然環境や優れた交通利便性を活かし、住環境の整備を核としたまちづくりを推進してきた。その結果、子育て世代を中心に人口増加が続いている。一方で、将来を見据えた地域経済の活性化や財政基盤の強化といった構造的課題も浮き彫りとなっており、本年３月には「福津市企業誘致方針」が策定された。この方針を単なる計画にとどめず、スピード感を持って具体的な施策へと反映させ、市民生活の向上や地元雇用の創出につなげることが極めて重要である。そこで、現在の進捗状況とともに、企業誘致をより一層加速させるための具体策と戦略について、市の見解を伺う。	
２.電力デマンド監視による電力コスト削減について	中東情勢等の影響によりエネルギー価格の高騰が長期化する中、電力コストの増加は本市の財政運営においても大きな課題となっている。令和７年９月定例会にて、電力コスト削減と脱炭素社会の推進（CO_2排出削減）の両面から有効な施策として「電力デマンド監視の導入」を提案し、執行部からは他自治体の状況を調査するとの答弁があった。そこで、その後の調査結果の検証状況および導入に向けた具体的な検討の進捗状況について伺う。	

１０．中村　晶代

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.市街地におけるイノシシ被害対策と住民の安全確保について	① 渡地域におけるイノシシの出没状況および生活環境被害の実態把握は。 ② 市街地におけるイノシシの捕獲対策と個体数の管理について、現在の取り組みと課題および今後の対策は。 ③ 住民の安全確保、特に子どもたちの通学路における安全対策と地域住民への情報提供は。	
２.市営住宅の居住環境の改善と住宅確保の課題について	① 市営住宅入居時の設備の設置および退去時の設備撤去に伴う入居者負担の現状と課題、今後の改善策は。 ② 単身世帯の増加や物価高による住宅困窮の状況を踏まえた、市営住宅の需要と供給戸数の検証は。 ③ 第２期福津市営住宅長寿命化計画において星ヶ丘団地と花見団地の集約・建替えが示されたが、現在の具体的な進捗状況は。 ④ 空き駐車場の活用等は。 ⑤ 単身者やファミリー世帯などの住戸区分（世帯構成制限）の柔軟な変更等は。 ⑥ 今後の連帯保証人制度の方向性等は。	

１１．佐伯　美保

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.情報共有と市民参画の推進について	市は、みんなですすめるまちづくり基本条例において、市民参画と共働を基本とするまちづくりをすすめるとの基本理念を掲げ、市民や事業者等との情報の共有やまちづくりに参画する機会を確保することに努めなければならないとしている。また、市長は所信表明で「対話することで市民ニーズを的確に捉えていく」と述べている。そこで以下の点について伺う。 ① 市民との対話の推進という観点での移動市長室等の進捗と課題等 ② 市民との情報共有に向けた情報公開の現状と課題等	
２.郷づくりについて	福津市郷づくり基本構想では、郷づくりの成果として、「８つの郷づくり地域が協議会を中心に、個性的で魅力ある取り組みを実践したり、地域の課題解決につながる様々な活動を行った」としている。郷づくりの現状と課題、市の支援策等について伺う。	
３.誰一人取り残さない教育環境の整備等について	市内小・中学校の校舎及び体育館等の老朽化や不足施設等の現状と対策、体育館への空調設備設置及び学校外の多様な学びにアクセスできていない児童・生徒への対策等について伺う。	

１２．岩下　豊

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．ごみ行政の課題と対策について	令和６年３月策定の第２次福津市一般廃棄物処理基本計画（中間見直し）の分別排出手法の検討のなかで、「高齢化や自治会未加入者等の増加がさらに進展した場合は、排出方法を調査・研究する必要があります」と述べている。そこで、以下の点について伺う。 ① 地域分別ステーションの課題 ② 自治会未加入者は地域分別ステーションを利用できるのか ③ 高齢者や障がい者など、ごみ出し困難者への対応についての考え ④ ごみ減量・リサイクル政策の進捗	
２．市民の移動手段を守る地域公共交通の充実について	今年の９月定例会の一般質問で、西鉄バスの一部廃線の予定、本木・勝浦地区への新たな交通手段導入検討、高齢者が積極的に外出することの重要性などが明らかになった。それらを踏まえ、以下の点について伺う。 ① 本木・勝浦地区への新たな交通手段導入検討にあたり、住民意見の聴取予定 ② 西鉄バス廃線に伴う代替交通と交通空白地への対応 ③ 高齢者の外出支援	
３．移動市長室の要綱改正について	本市は今年９月、福津市まちづくり地域懇談会（移動市長室）実施要綱を改正した。移動市長室の目的は「市民の意見及び提言を幅広く聴取し、市政に反映させる」こととしている。そこで、今回要綱を改正した意図を伺う。	

１３．豆田　優子

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．包括的性教育について	世界では、包括的性教育が標準とされている。包括的性教育とは、単なる生殖器官や妊娠についての知識の伝達ではなく、性交、避妊、ジェンダー、人権、多様性、人間関係、性暴力の防止なども含めた幅広い教育である。子どもたちが、自分の性や身体に対して肯定的に捉えられるようになり、「自己肯定感」を高めるとされている。子どもに限らず老若男女を問わずに必要だという意見もある。そこで本市の取り組みについて伺う。 ① 包括的性教育の現状 ② 今後の取り組み	

１４．尾島　武弘

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１.臨時行財政運営方針について	市は令和８年度から令和９年度までの２年間、臨時行財政運営方針を定め、政策事業の選択と集中の考え方に基づき、３つの緊急性・重要性のある施策に優先的に取り組むとしている。近年全国的に集中豪雨や地震等が頻繁に発生していることから、今回、市が定めた施策の一つである「災害に強く、安心して暮らせるまちへ」について、以下の項目の具体的内容と進捗状況及び課題を伺う。 ① 地域防災計画や防災関連計画の見直し ② 防災・減災対策、インフラの強靭化 ③ 防災情報の発信 ④ 指定避難所や自主避難所の体制の整備 ⑤ 市民・地域・行政による防災訓練と連携	
２.農地等の冠水対策について	津屋崎地区・勝浦地区は農地等が海の満潮水面より低く冠水被害が出やすいため、大雨時には３カ所の排水機場を稼働させ強制排水したり、水門から排水をしたりして、田畑や住宅の冠水被害を防いでいる。また、ため池の堤体の点検や水路の浚渫等も冠水対策として重要である。そこで、市が実施している冠水対策の現状と課題について伺う。 ① 排水機場の保守点検及び運用状況 ② 堀切水門の補修内容と進捗状況 ③ ため池の点検状況及び補修状況 ④ 水路の浚渫計画及び浚渫状況 ⑤ 転倒井堰の新設計画状況	

１５．中村　恵輔

質　問　事　項	質　　問　　要　　旨	備考
１．持続可能な財政基盤の構築と行政経営の改革について	本市では、人口増加に伴う行政需要への対応や公共施設の老朽化など、今後も多くの財政負担が見込まれる。 一方で、教育環境の改善や子育て支援、地域経済の活性化など、取り組むべき課題も多い。限られた財源の中で必要な政策を実現していくためには、既存事業や公共施設のあり方を見直すとともに、新たな財源を生み出し、政策の優先順位を明確にしていく必要がある。 令和８年９月定例会で取り上げた持続可能な行政サービスの提供体制を踏まえ、今後の行政経営について、以下を伺う。 ① 本市の財政構造の現状認識と今後の課題 ② 既存事業の廃止・縮小・再編等による財政効果と生み出した財源の活用状況 ③ 公共施設の更新・長寿命化の際の統廃合や複合化、民間活用等を含めた今後の判断基準と実施時期 ④ 企業誘致や産業振興、公有財産の有効活用など、自主財源の確保に向けた取り組みと今後の考え ⑤ 既存事業の見直しと将来への投資を両立させるため、今後の政策の優先順位と財源配分をどのように考えているか。	
２．電子投票の導入について	地方公共団体の議会議員及び長の選挙では、条例で定めることにより電子投票を導入できる制度が設けられている。 電子投票は、開票事務の効率化や迅速化に加え、投票環境の改善につながる可能性がある。一方、導入にあたっては費用対効果や安全性、幅広い有権者への対応などを検討する必要がある。そこで、以下について伺う。 ① 投開票事務の現状及び経費と人的負担 ② 電子投票導入による効果と課題 ③ 電子投票導入の可能性と今後の検討	